

大野イトヨの会 イトヨ通信 第42号



発行 大野イトヨの会事務局
〒912-0054
福井県大野市糸魚町8-44
本願清水イトヨの里内
Tel, fax (0779) 65-5104

謹んで新春のお祝辞を申し上げます

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと存じます。

昨年は、会の運営及び事業について、多大なるご協力並びにご理解を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

『水に恵まれた大野市』 胸をはってその襟を次世代へと渡せるよう日々の努力が求められる今日、環境への意識をこれまで以上に高め、大野市の大切な宝『イトヨ』への思いを益々大切にして住みよい環境づくり推進事業を考え、多くの皆様と手を携え頑張っていきたいと考えております。何卒、皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

大野イトヨの会 会長 中村 圭吾



新春特別企画「吉兆・縁起物としての亀」【開催中】

■会場：本願清水イトヨの里エントランス

■期間：1月5日(金)～2月12日(月)

お馴染みのニホンイシガメやスッポン、クサガメや要注意外来生物のアカミミガメの生体などを展示しています。

日本では長寿を象徴する縁起のよいものとして珍重され、古くからさまざまな文学作品や芸術作品に記述がみられます。この機会に、見て触れてください。

また、市内各文化施設では様々な新春企画展を開催しており、かつて各家の新春の玄関を飾っていた「まゆ玉飾り」で皆様のご来館をお待ちしています。



平成29年度 イトヨの会事業 (イトヨの里事業を含む)

6月18日 イトヨ観察会(観察とザリガニ釣り)(共催)

7月 イトヨ通信41号発行(主催)

7月22日～9月18日 イトヨの里29企画展(共催)

・7月22日 オープニングギャラリートーク

・8月12日 フォトトーク&写真講座

8月27日 イトヨミニカフェ(主催)

10月22日 イトヨ観察会(観察と絵手紙教室)(共催)

12月17日 イトヨクリスマス観察会(共催)

(冬のイトヨ観察、工作、ゲーム、ケーキデコレーション)

1月 イトヨ通信42号発行(共催)

ちょっとお知らせ！ 電柱看板が新デザインに



こぶし通りの電柱看板のデザインが一新され、イトヨの里への案内がわかりやすくなりました。

故郷の魅力を再発見 イトヨの里 29 企画展が開催されました

～ぶなの木のひとしずくからはじまるものがたり～

たくさんのご来場ありがとうございました。  (7/22 ~ 9/18)



写真家 中林義晴さんによるオープニングギャラリートーク 7/22

フォトトーク&写真講座 8/12

本願清水でゆったり癒しの時間

イトヨミニカフェが開かれました (8月27日)

イトヨの里 29 企画展開催中の8月27日(日)、大野イトヨの会の主催事業として「イトヨミニカフェ」が開かれました。大野市がCWP(キャリングウォータープロジェクト)で取り組んでいる「水を食べるレストラン」商品の水まんじゅうと東ティモール産コーヒー豆を使用したアイスコーヒー又はジュースのセット(100円)30セットの販売を行いました。大野イトヨの会からも販売スタッフを含め16名の参加がありました。夏の終わりの暑い日でしたが、企画展を観覧した後、大人も子どももしばし暑さを忘れて楽しまれていました。来館者からはとても好評でした。



有終南小学校のフェンスに掲げられている横断幕

【今年度の3年生総合の学習テーマはイトヨ大好きふやし隊】



五泉トゲソの会設立20周年記念

湧水環境を題材にしたESD学び合いフォーラムが開催されました

イトヨの里からは杉川さんが参加し、事例発表とポスター発表を行いました。11月25日（土）～26日（日）

※トゲソはイトヨの仲間、トゲウオ科のイバラトミヨのことで五泉市ではそう呼ばれています。



イトヨの里のポスター展示

五泉小学校のポスター発表



トゲソ生息地の現地視察

写真左は五泉南小学校のトゲソの生息するピオトープ

世代間交流で、大人も子どもも楽しめたイトヨ観察会

第1回イトヨ観察会 6/18

イトヨの巣づくり観察
ザリガニ釣りの体験



第2回イトヨ観察会10/22

イトヨの体の仕組みを学び
イトヨの絵手紙を描こう



第3回イトヨ観察会 12/17

冬のイトヨと稚魚の観察
紙コップの工作とゲーム
プチケーキのデコレーション



てんでんこ



イトヨを見る天皇、皇后両陛下—岩手県大槌町、代表撮影

「数百匹……。ずいぶん減ったんですね」
 2016年9月、岩手県の大槌町役場。水槽を泳ぐトゲウオ科の「イトヨ」を見ながら天皇陛下がつぶやいた。
 町を流れる大槌川支流の源水川に生息する淡水型イトヨは、町の天然記念物に指定されている。湧水が豊富な源水川には5千匹ほどが生息していたとされるが、震災で数百匹程度に減ったとみられる。大槌町教育委員会の越田実紀子さん(38)が説明をはじめると、陛下の質問が始まった。魚類学者である陛下の質問は「専門的で、繁殖期の体色の変化もご存じだった」という。説明後には「大切にしてください」と声をかけられたそうだ。
 秋篠宮さまもイトヨの保全活動で大槌町と交流がある。

3世代にわたって継承された、両陛下の被災地への思い。

291

1999年11月。町で開かれた研究会に参加した秋篠宮さまは、イトヨについて「生物多様性に配慮した保全を期待する」と話した。2002年11月のシンポジウムでは「押しつけではなく、イトヨならイトヨに興味を持ち、住んでいる地域を理解し、大事な環境を保全していただきたい」と訴えた。
 震災の年の4月上旬、東京で開かれた会合の会場。秋篠宮さまは紀子さまと、イトヨを通じて交流のあった大槌町職員(当時)の佐々木健さん(60)に歩み寄り声をかけた。「ご迷惑のわからない時期に大槌町にお見舞いを申しあげたいと考えている」
 翌5月、お二人の大槌、山田両町の避難所訪問が実現した。二手に分かれて床にひざをつき、予定時間を超えて一人ひとりに声をかける様子を見た佐々木さんは「両陛下のスタイルを継承している」と胸が熱くなった。佐々木さんの求めで、秋篠宮さまは佐々木さんの自家用車のドアに「希望11・5・26」と記した。帰り際には源水川にも足を延ばした。
 その後も交流は続く。14年6月には長女眞子さまと訪れ、大槌漁港で復興状況を視察。湧水を飲み、参加したシンポジウムでイトヨについて「湧水の一つのメルクマール(指標)として大事な魚」と語った。眞子さまと次女佳子さまは、県内でボランティア活動にも参加している。両陛下の被災地への思いは、3世代にわたって継承されている。
 佐々木さんは言う。「イトヨは被災地と皇室を結ぶ絆。津波で失ったものは大きいですが、新たな希望を見いだせた」
 (多田晃子)

イトヨの里29市民講座開催が決定しました

日時：平成30年3月10日(土)午後1時30分～

会場：イトヨの里レクチャールーム

テーマ：希少魚の保全(仮称)

基調講演：希少魚の保全～水族館の役割り～

アクア・トトぎふ 岐阜県世界淡水魚水族館 展示飼育部長 池谷幸樹さんをお招きします。

報告1：日本のトゲウオの現状 森 誠—イトヨの里館長

報告2：本願清水のイトヨの現状と今後の課題 長谷川 幸治 イトヨの里副館長

報告3：五泉トゲソの会20周年記念 ESDフォーラム参加報告 杉川 蘭美 …等を予定しています

共催
です。

【会員の皆さまのご参加をお待ちしています】